

アスパラガス高畝栽培における極早生品種の収量性

【要旨】アスパラガス高畝栽培における極早生品種の活用は、春芽収穫開始時期を早期化させ、収量性を高めることが期待されます。

#アスパラガス #極早生品種 #春芽

アスパラガスは県推進6品目の一つで、立った姿勢で収穫が可能な「高畝栽培(写真1)」を中心に栽培面積が広がっています。アスパラガスの単価は夏芽と比べて春芽が高いことから、春芽収穫開始時期を早め、春芽収量を増加させることが重要です。

そこで、近年上市された極早生品種を用いて、高畝栽培における収量性を調査しました。



写真1 アスパラガス高畝栽培

【研究の成果】

試験は、極早生品種として‘スグデルⅡ’、慣行品種として‘ゼンユウガリバー(以下、ガリバー)’を用い、高畝栽培にて比較しました。その結果、‘スグデルⅡ’は、2月中旬頃から収穫を開始することができ、可販収量は春芽・夏芽ともに‘ガリバー’と比べて優れていました(図1、2)。一方、‘スグデルⅡ’は、穂先の開きや曲がりによる規格外品が多いことが今後の課題です。

以上の結果から、アスパラガス高畝栽培における極早生品種の活用は、春芽収穫開始時期を早期化させ、収量性を高めることが期待されます。

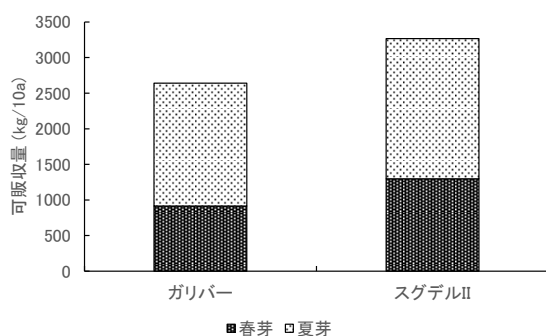


図1 各供試品種の可販収量(2023~2025)
収穫1年目から3年目までの平均

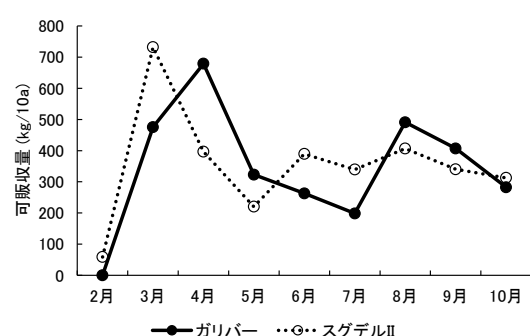


図2 各供試品種の可販収量の推移(2025)

【重点推進事項】水田園芸の拡大

【問い合わせ先】栽培研究部水田園芸科 高祖 崇好